

アクティブ・ラーニング、事前対策会で議論を深める

2017年7月26日（水）16時45分より、板橋校舎にてアクティブ・ラーニング事前対策会が行われた。南砺、沖縄、登別のプログラムに分かれて事前対策を行った。今回の記録では、南砺プロジェクトを取り上げてみたい。

今回から南砺プロジェクトには、松村謙三氏の調査に加え、五箇山の世界遺産や城端地区の町並み保存の調査も加わっている。五箇山は重要伝統的建造物群保存地区（町並み保存地区）であり、城端地区では古い町並みが続き地域資源となっている。これらのことを事例とし、日本各地で展開されている町並み保存についての認識を深めていくことが一つの目的となっている。

当日は南砺プロジェクトのうち町並み保存調査担当の3人から五箇山地区での取り組み状況について報告がなされた。その後、その発表に関連し、町並み保存はどのような経緯でなされるようになってきたか、重伝建地区とはどのような経緯で指定されるのか、といった点についてさらに考察を深めていった。

大東文化大学の2つのキャンパスは東武東上線で結ばれており、途中には川越市がある。その川越市で行われている町並み保存の取り組みは全国から注目されているところである。身近にあるそのような取り組みを理解していく上で、今回の学習は役立ったのではないかと思える。今回学んだ知識を基にして身近にある町並み保存地区を歩き、その取り組みを紐解いて頂きたいものである。



町並み保存班からの発表の様子